



第545号

2017年(平成29年)6月20日
毎月1回20日発行

P1

特別支援学校 卒業生の 進路について

■進路調査の報告……P3

P8~10

知的障害の ある人の歯科治療

P11

わが施設、 事業所の天下一品

P12

キラッとひかる!

P13

本人活動

P14

私の街のっておき

特集

特別支援学校卒業生の進路について

今春の企業就職の状況

今春の都内知的障害特別支援学校高等部全卒業生(国立・私立を含む)は1600人を超え、都内の知的障害特別支援学校の卒業生は1578人でした。全卒業生の就職率は44・5%、都立卒業生の就職率は44・8%。ともに昨年度は46%超でしたので、若干減少したことになります。

その要因としては、全就職者数の伸び(700人から718人に)以上に卒業生総数(1544人から1613人に)が増えていることが挙げられます。また、企業就職を選ばずに、就労移行や自立訓練を選択した結果による就職率の

漸減もあります。都内では、自立訓練の2年間と就労移行の2年間をセットにして就職のためのトレーニングを受けられる事業所があります。大学に行く4年間という感覚で進路選択しているケースもあるようです。

就職先の職種として一番多いのは「事務」で、昨年度からも12人増加しています。次に多いのは「清掃」ですが、昨年度より20人も減っています。東京都の療育手帳である愛の手帳の3度(いわゆる中重度)の就職者が昨年度より5人減ったのも「清掃」職種の就職者が減少しているためと思われる。一方、「物流」職種への就職者の伸びは著しく、昨年度より25

人増加しています。宅配事業における取り扱い荷物の増加にともなう雇用者数の伸びが主因と考えられます。「飲食厨房」「製造」職種は昨年度同様、減少傾向です。

東京都教育委員会版チャレンジ雇用に関しては、昨年度2人から今年度11人と増加しています。

また、一般企業における正社員雇用数も昨年度より23人増加しています。知的障害のある人への社会的な理解の進展と、昨年度より施行された障害者差別解消

編集委員、都立中野特別支援学校進路指導専任 小野寺肇

編集委員、都立あきる野学園主任教諭 神立佳明

法により企業が障害のある人を長く雇用するという意識が出てきたことの表れかと思われれます。

来年度、5年ぶりに障害者雇用率の見直しが行われます。精神・発達障害のある人の雇用増加と

